



三島市「2050年カーボンニュートラルシティ」表明

近年、地球温暖化が主な要因とされる気候変動により、平均気温の上昇、台風、大雨等による被害、農作物や生態系への影響等が観測されており、今後、地球温暖化の進行に伴い、豪雨や猛暑のリスクが更に高まることが予測されています。

この問題への対応は、私たち一人ひとり、この星に生きる全ての生きものにとって避けることができない、喫緊の課題です。

2015年にCOP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）において採択されたパリ協定において、「世界的な平均気温の上昇を産業革命以前と比較して、 2°C より十分低く保ち、 1.5°C に抑えるよう努力する」という目標が掲げられました。

一方、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、「気温上昇を 1.5°C に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

三島市は、湧水がつくるせせらぎ、箱根西麓からまちなかに広がる緑、さわやかな空気あふれる、自然豊かな快適に過ごせるまちです。この環境を未来へつないでいくため、2050年度までのカーボンニュートラルシティ（温室効果ガス排出量実質ゼロのまち）の実現を、市民や事業者の皆さまとともに目指すことを表明します。

令和4年3月18日

三島市長

豊岡 武士